包括的な学校改善の視点：教員の資質能力の向上

ＩＣＴの効果的な活用　留萌小学校モデル

中核校	留萌市立留萌小学校	指定校	留萌市立港北小学校、留萌市立港南中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　ＩＣＴ活用能力の育成に向けた計画的な指導

・児童が目指す資質・能力の育成に向けた効果的なＩＣＴ活用ができるようにするため、低学年、中学年、高学年それぞれの発達の段階に応じたＩＣＴ活用能力を設定する。

・全教職員は、端末操作の技能だけでなく、ロイロノートなどの学習支援アプリの使い方や情報モラル教育についても、児童の発達の段階に応じた指導を行う。

	学習内容	低学年【2年生修了時までにできる】
基本操作	めあて	機器やソフトがもつ機能の基本的操作ができる
	端末	○文字入力ができる。（手書き入力）
	ロイロノート	○カードを開き、文字入力したり、写真、動画を撮って提出したりできる。 ○資料箱からファイルや写真を取り出すことができる。 ○複数のカードをつなげることができる。 ○カードの提出や先生や友達に送ることができる。 ○アンケートカードに答えることができる。

【ＩＣＴ活用能力育成指導計画】

○　ロイロノートの効果的な活用

・日常的に学習支援アプリのロイロノートを活用した授業を行い、共有ノート機能を活用した他者参照を通して、児童が自分の考えを広げたり深めたりする学習場面を設定する。

・自分の考えをもつことができない、または自分の考えに自信がもてない児童が主体的に学習に取り組むため、全教職員が、他者参照する学習場面を設定する。

【他者参照しながら自分の考えを整理】

○　Teamsを活用した授業改善の取組を実施

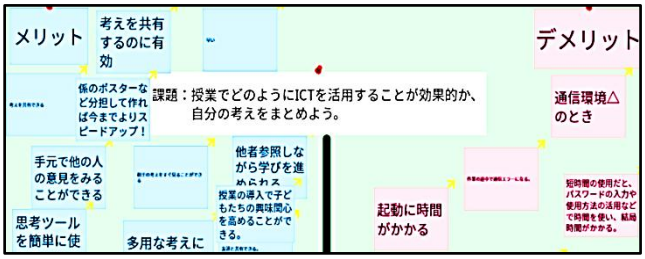
・外国語科の授業では専科教員がTeamsのファイルに資料をアップロードし、児童がそこからExcelの共有シートにアクセスして学習計画を立てる仕組みを整える。また、児童が効率よく学習に取り組めるようにするため、発表用の資料作成ではPowerPointにアクセスできるようにする。

・図工において、教員がTeamsのファイルに制作物を掲載するなど、コメント機能を活用した授業を行い、児童が感じ取ったり考えたりしたことを書き込み、自分の見方や感じたことを深めることができるようにする。

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・「ＩＣＴの活用」をテーマとした学校力向上に関する総合実践事業　地域協議会において、合同研修会を実施した。授業公開、各学校のＩＣＴ活用についての交流、講師によるロイロノートの使い方の研修を通じて、全教職員のＩＣＴ活用指導力を育成する機会を設定した。



【合同研修会における協議内容の一部】

・全教職員が一つのチームとなって包括的な学校改善を図りながら、今日的な教育課題を解決する中核校としての取組を管内に普及するため、11月に教育実践発表会を実施した。

〔研修主任の取組〕

・ＩＣＴ活用指導力を高めるため、ロイロノートやAIドリル等の効果的な活用をテーマとした校内研修を実施した。

・全教員による授業公開において、効果的なＩＣＴの活用方法に関する相談や助言を行った。

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・管内の教職員を対象とした教育実践発表会において、研修主任が研修方法に関して、理科専科教員が授業づくりやＩＣＴ活用に関して説明を行うとともに、授業者３名が個人課題型の研修の実践として授業公開することを通して、目指す資質・能力の育成に向けた中核校の取組を公開した。